

神出防災福祉コミュニティ 地域おたすけガイド

平成 28 年 12 月作成

平成 29 年 7 月修正

神出防災福祉コミュニティ

地域おたすけガイドを作成する前に…

- (1) 地域おたすけガイドは、神出防災福祉コミュニティにおいて災害時に活動する際に活用するものです。災害時は、周囲の状況をよく確認し、自らの安全を確保し、無理をせず、自分たちのできる範囲で活動を行うことが大前提です。
- (2) 皆さんの災害時の活動をより効果的にするために、これまで我々が取り組んできた防災活動の経緯・実績、他地区での優良事例を参考に、この地域おたすけガイドを作成しました。
- (3) しかし、この地域おたすけガイドに記載している内容は完全ではありません。
- (4) 訓練を通して繰り返し検証して、神出地域に適したガイドにするために、どんどん見直していきましょう。



神出防災福祉コミュニティ地域おたすけガイド

防コミ運営本部設置基準

- 震度 5 弱以上若しくは兵庫県瀬戸内海沿岸に津波警報が発表された場合、地震による災害が発生し、又は災害が拡大する恐れがある場合。
- 特別警報が出された場合。
- 上記のほか、大雨等で神戸市に土砂災害警戒情報が発表された場合。

活動方針

阪神・淡路の教訓で、近隣の方々に助けあうことはとても重要です。しかしながら、周囲の状況をよく確認し、自らの安全を確保し、無理をせず、自分達の出来る範囲で防災活動を行いましょう!!

防コミ運営本部
設置場所

神出連絡所(西区神出町田井 50) TEL: 965-1001

■ 本部の組織体制

役職	団体の役職名	
会長	神出町自治協議会会長	
顧問	西消防団神出支部支団長、 西消防団神出支団顧問	西消防団神出支団相談役、
副会長	神出町自治協議会副会長、	西消防団神出支団副支団長
幹事	神出かたこ会連絡協議会会長、 神出中学校 P T A 会長、 J A 兵庫六甲神出支店長、 神出子ども会会長、	神出小学校 P T A 会長、 民生児童委員会協議会神出地区会長、 青少年育成協議会神出支部長、 神出友愛会長
会計	神出町自治協議会会計	
書記	西消防団神出支団分団長	
本部組織	平常時の訓練指導班、 情報収集・伝達班、	関係機関との連絡調整班、 災害活動調整班、避難所支援班

○各地区の防災設備については、各地区ごとの安全マップにとりまとめています。

神出地域で想定される災害

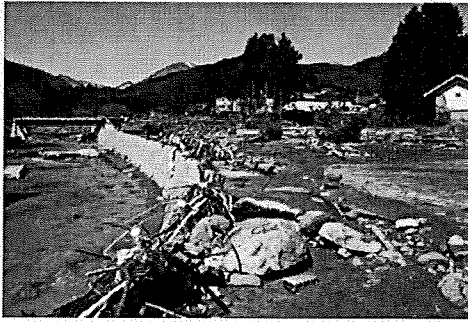
地域お助けガイドで想定する災害は地震と風水害です。

南海トラフ巨大地震などで想定される津波被害は直接影響が少ないと思われ
ますが、地震による家屋の倒壊、火災の発生などが考えられます。

また、ため池の多い神出地域では、ため池の決壊による”内陸津波”の危険につ
いても想定しておく必要があります。

風水害については、大規模な河川の氾濫などは想定されていませんが、近年の
局地的な大雨などによる浸水などは想定しておく必要があります。

東日本大震災でのため池決壊



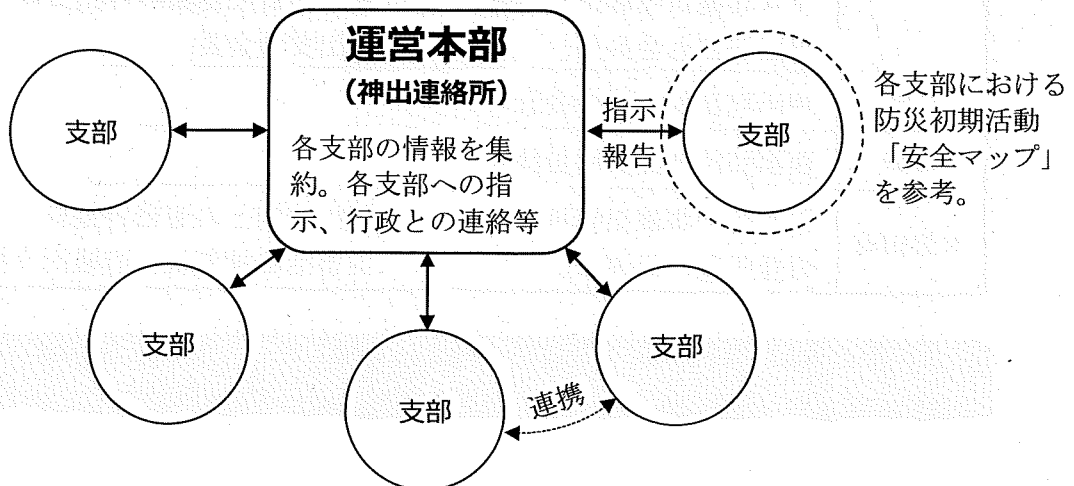
防災情報機構 NPO 法人より

藤沼貯水池は、東日本大震災発災日の
ちょうど1年前に農林水産省の「ため
池百選」に選定された総貯水量は150
万立方mの大規模なため池です。藤沼
貯水池の決壊では、ほぼ満水の約150
万トンの水が流出し、土石流となって
下流居住地域を襲いました。下流の長
沼地区と滝地区での死者8人のほか、
全壊家屋19棟、床上床下浸水家屋55
棟、田畑の多くが流失しました。

神出地域での防災初期活動

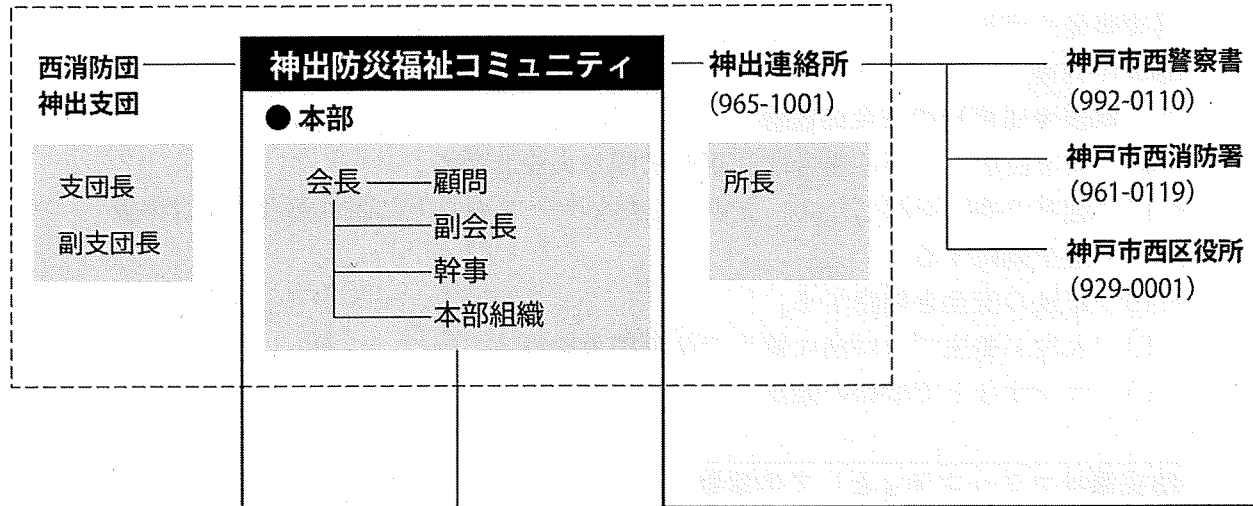
神出地域は広く、災害初期においては本部ですべての情報が把握できている
とも限らず、本部からの指示を待っている支部の活動が円滑に進まない可能
性があります。

支部で各自の初期対応、初期活動を行うとともに、本部組織の立ち上げを行い、
本部での情報集約、各支部への指示等を行い、円滑な初期活動を行う必要があり
ます。

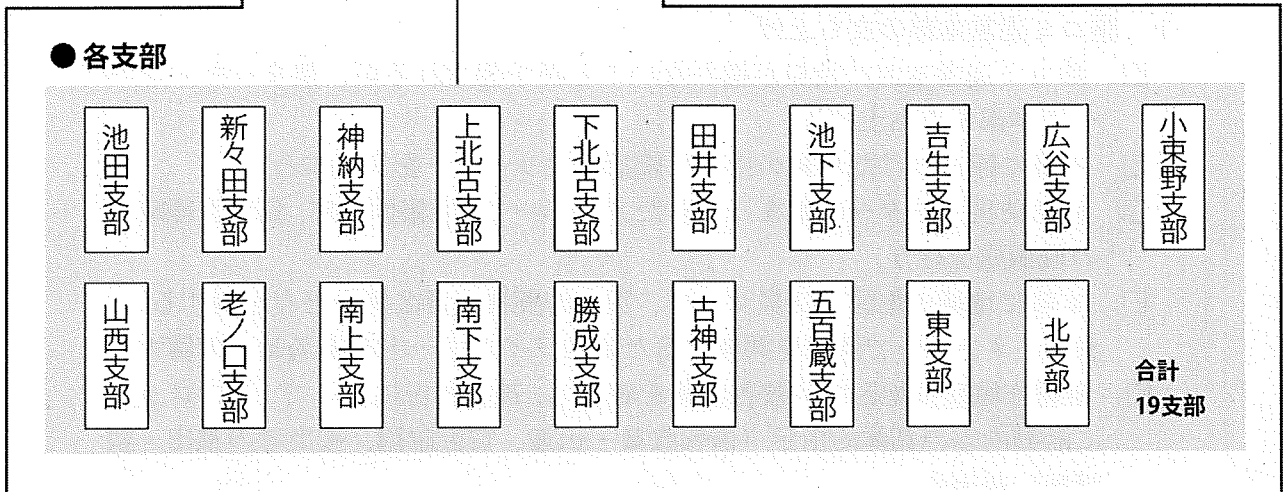


防コミ全体の連絡体制

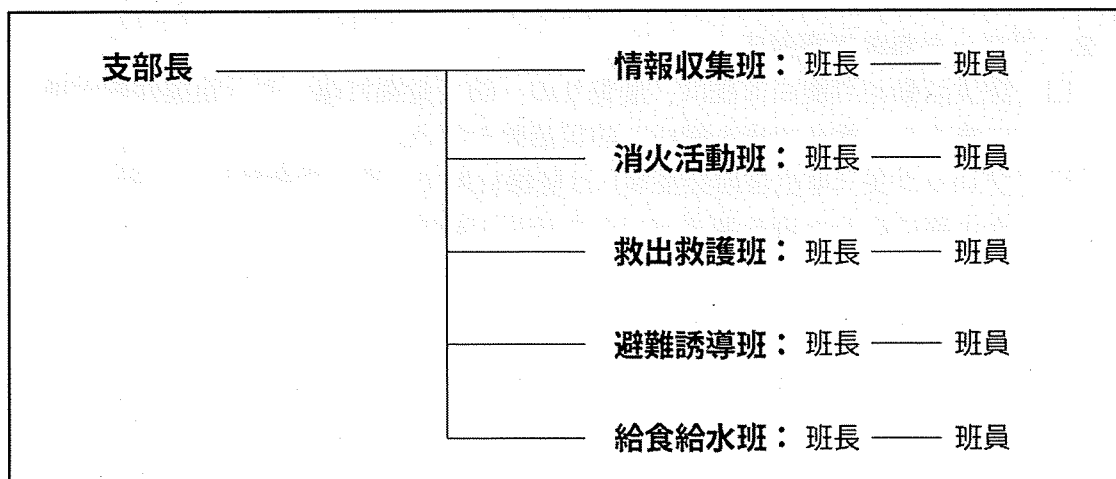
運営本部



各支部



支部内の連絡体制



□は、その行動が完了したら✓をつける。

①地震

【災害発生直後】

個人の行動

1 地震発生直後の安全の確保

- 火を使用している場合は、可能な限り火を止める。
- 地震の揺れを感じたら、まず、丈夫なテーブルの下に隠れるなど、身の安全を確保する。
- 家族の安全を確認する。
- 火災が発生すれば消火器等で初期消火を行う。
- ラジオなどで情報の確認。

防災福祉コミュニティとしての活動

1 防コミ運営本部の立ち上げ

- 防コミ運営本部に役員が揃わないことが予想されるが、集まったメンバーで本部を立ち上げる。
- 本部に駆けつけた役員の中から統括防災リーダーを決定する。
- 統括防災リーダーは集まってきたメンバーで、情報作戦班、資源管理班等の班編成を行う。
- 本部に地域の地図、防災マップ、災害時要援護者名簿などを配置する。また、メンバーで情報を共有するためホワイトボードや模造紙を準備する。
- 情報作戦班は地区内の被害情報を収集し、被害状況に応じて、各ブロックに活動内容の具体的指示（情報収集・伝達、安否確認、被災者の救出・救護等）を出す。
- 各ブロックの活動班の人員が不足している場合は、本部から人員を派遣する。

2 ブロック毎の災害対応

- 防災活動が可能な市民は、最寄りの「防災資機材庫」や「耐震性貯水槽」に集まり、数名で班を編成し防災活動を行う。
- ブロック長（単位自治会長等）は資機材庫で、消火や救助など、対応すべき災害に応じた班を集まってきた市民で編成する。

3 情報収集・伝達

- ラジオ、テレビ、防災行政無線等で地震情報等の収集を行う。
- 防災行政無線等により収集した地震情報等は、伝令等により、ブロック長に伝達する。
- 伝令等により、ブロック長から各地区内の被害状況や住民の安否等の状況調査を行う。

*地震時は有線電話、携帯電話は使用できないと考えた方がよいです。

4 安否確認

- 事前に用意している災害時の要援護者名簿に基づき安否確認を行う。
- 事前に用意していない場合は、民生・児童委員等と協力し安否確認を行う。
*ドア等に安否確認済みの目印をつける、安否不明者宅に連絡票を張るなどによる区別も効果的です。

5 消火活動

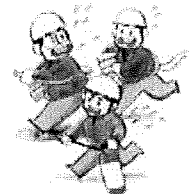
- ブロック単位で耐震性防火水槽の小型動力ポンプやあらゆる消火器具等を活用し初期消火を行う。
- 出火場所を確認する。
- 消火活動人員の割り振りをする。
*火災の規模によっては消火器やバケツリレーでの消火も重要です。

6 救出・救護活動

- 二次災害に注意しながら、ブロック単位で防災資機材を使用し、負傷者を救出する。
*救出にはジャッキやバール、のこぎりなどが有効です。
- 救出活動人員の割り振りをする。
- 被災者が負傷している場合は、止血等の応急手当を実施し、医療機関に搬送する。

7 災害時要援護者の避難支援

- 自宅の損傷の状況等により、避難所等に避難する必要がある災害時の要援護者の避難支援を行う。
- 支援者の割り振りをする。



8 区や消防署への連絡

- 被害情報、活動情報等を区役所や消防署に連絡する。
- 避難所運営で必要な事項を区役所等へ伝える。

9 避難所のたちあげ

- 学校関係者や区役所職員と協力して避難所をたちあげる
- 避難者名簿の作成

□は、その行動が完了したら✓をつける。

②風水害

【災害発生前】

1 防コミ運営本部の立ち上げ

- 防コミ運営本部に役員が揃わないことが予想されるが、集まったメンバーで本部を立ち上げる。
- 本部に駆けつけた役員の中から統括防災リーダーを決定する。
- 統括防災リーダーは集まってきたメンバーで、情報作戦班、資源管理班等の班編成を行う。
- 本部に地域の地図、防災マップ、災害時要援護者名簿などを配置する。また、メンバーで情報を共有するためホワイトボードや模造紙を準備する。

2 情報収集・伝達

- 防災行政無線、ラジオ、テレビ等から気象情報、土砂災害警戒情報等を収集する。
- 収集した情報は、有線電話、携帯電話等により、ブロック（自治会）長に伝達する。
- 洪水や土砂災害の危険性が予測される場合は、災害時要援護者に早期の自主避難を呼びかける。また、各ブロックの活動班による災害時要援護者避難誘導が実施できるよう体制を整える（人員確保等）。

【参考】

避難情報の種類	
避難準備・ 高齢者等避難開始	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 避難に時間がかかる人(ご高齢の方、障害のある方乳幼児をお連れの方等)は避難を開始しましょう。<input type="checkbox"/> いつでも避難ができるよう準備をしましょう。
避難勧告	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> すみやかに、緊急避難場所や安全な場所にある知人や親戚の家へ避難しましょう。
避難指示(緊急)	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> まだ避難していない場合は、ただちに、安全な場所へ避難しましょう。<input type="checkbox"/> 外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。

3 組織内の連絡体制の確保

- 情報伝達の手段や順番（誰が誰にどのように伝えるのか）をあらかじめ整理しておく。

4 災害時要援護者の避難誘導

- 洪水や土砂災害の危険性が予測される場合で、災害時要援護者が自ら避難できない場合は、各ブロックの活動班により避難誘導を実施する。

5 資機材等の確保

- 災害発生時に備えて、防災資機材の確保や非常食等の確保をする。

【災害発生直後】

1 防コミ運営本部による指揮

- (【災害発生前】と同様の方法で防コミ運営本部を立ち上げる。)
- 情報作戦班は地区内の被害情報を収集し、被害状況に応じて、各ブロックに活動内容の具体的指示(情報収集・伝達、安否確認、被災者の救出・救護等)を出す。
- 各ブロックの活動班の人員が不足している場合は、本部から人員を派遣する。

2 ブロック毎の災害対応

- 防災活動が可能な市民は、最寄りの「防災資機材庫」や「耐震性貯水槽」に集まり、数名で班を編成し防災活動を行う。
- ブロック長(単位自治会長等)は「救出・救護」など、対応すべき災害に応じた班を集まってきた市民で編成する。

3 情報収集・伝達

- 防災行政無線、ラジオ、テレビ等から気象情報、土砂災害警戒情報等を収集する。
- 防災行政無線等により収集した気象情報等は、有線電話、携帯電話等により、ブロック長に伝達する。
- 有線電話、携帯電話等により、ブロック長から各地区内の被害状況や住民の安否等の状況調査を行う。

4 安否確認

- 事前に用意している災害時の要援護者名簿に基づき安否確認を行う。
- 事前に用意していない場合は、民生・児童委員等と協力し安否確認を行う。
*ドア等に安否確認済みの目印をつける、安否不明者宅に連絡票を張るなどによる区別も効果的です。

5 救出・救護

- 二次災害に注意しながら、ブロック単位で防災資機材を使用し、被災者を救出する。
- 被災者が負傷している場合は、止血等の応急手当を実施し、医療機関に搬送する。

6 区や消防署への連絡

- 被害情報、活動情報等を区役所や消防署に連絡する。
- 避難所運営で必要な事項を区役所等へ伝える。

7 避難所のたちあげ

- 学校関係者や区役所職員と協力して避難所をたちあげる。
- 避難者名簿を作成する。

「福祉避難所」について

神戸市では、避難所での生活において、何らかの特別な配慮を要する方のための二次的避難所として、地域福祉センターや特別養護老人ホームなど、357箇所を「福祉避難所」に指定しています（平成29年3月末時点）。

福祉避難所の対象者は、市の保健師が避難所で行う健康調査等をもとに、ご本人やご家族の意向や状況を踏まえ、市が決定します。

要援護者から福祉避難所への直接避難の相談があった場合は、区災害対策本部へ連絡いただくよう、対応をお願いします。

※福祉避難所の開設は、対象者の人数や施設の状況、対応可能な人員や物資の確保の状況等を踏まえて、市が判断します。災害時に常に開設される訳ではありませんので、要援護者の方を含め、まずは一般避難所へ避難していただくことになります。



③共通事項

【数時間後～3日（72時間）ぐらまで】

1 役割分担の見直し

- 防災福祉コミュニティの役員の集結状況や災害の状況に応じて役割を、見直す。

2 避難所の運営

- 学校関係者、区役所職員や災害ボランティアと協力して避難所の運営にあたる。
- 女性や子育て家庭への配慮
- 同行避難してきたペットへの配慮
- 災害時要援護者への配慮（要援護者ご本人やご家族の意向を踏まえ、避難所内に一般の方と分けした要援護者のための福祉避難室を設けるなどの対応：保健室の利用など）

※特に、知的や精神、発達障がい者のうち、集団生活に対応することが困難な方、透析患者やオストメイト（人工肛門など）などの内部障がい者について、特別な配慮が必要であることを、他の避難者に理解していただくことが大切。

- 福祉避難所（次頁参照）を必要とする方について、避難所を巡回する市の保健師へつなぐ。

3 生活情報の収集

- 生活情報の収集及び住民への周知

4 防火・防犯パトロール

- パトロール班を結成し、交代で地域内のパトロールを行う。

災害時要援護者とは

災害が発生した場合に、安全な場所に避難したり、避難場所での生活において困難が生じて、まわりの人の助けを必要とする方

- ・障がいのある方
- ・介護が必要な方
- ・高齢者（ひとり暮らしの方、高齢者世帯など）
- ・難病患者、乳幼児、妊産婦のほか、災害時に負傷した方など自力で避難することが難しい方

情報収集・伝達

- 1 ラジオ、テレビ、防災行政無線等で地震情報等の収集を行う。
- 2 地域内の災害情報を把握する。

情報収集・伝達手順

1 情報収集

収集した情報はホワイトボード等に時系列で記載する。

(1) ラジオ等での情報収集

通信手段が確保されている場合は、ラジオ、テレビ、防災行政無線のほか、電話等も活用する。

(2) 行政からの情報収集

各種機関へ直接連絡を取り、必要な情報を収集する。また、定期的に区役所等に
出向くなどして、公開されている情報を収集する。

(3) 各ブロックからの情報収集

情報収集班を各ブロックに派遣し、現状確認により情報を収集する。

2 情報伝達

情報を伝える手段として、ハンドマイク、広報掲示板、回覧板も効果的に活用する。

安否確認

1 安否確認情報の収集

2 安否不明者の確認

事前に用意していない場合は、民生・児童委員等と協力し
安否確認を行う

訪問先での確認手順

1 外観の確認

建物に甚大な被害がないかを確認してください。

2 声かけ・呼びかけ確認

門の外側で大きな声で呼びかけ、安否を確認する。

3 ドアをノックする

応答がないときは、呼びかけと一緒にドアをノックしてみてください。

4 庭、勝手口等の確認

状況が把握できないときは、庭、勝手口などの確認をしてください。

5 確認シール貼付

確認した状況に応じて、玄関ドアにシールを貼付してください。

必ず右上部付近に貼付

【シールの色分け】

- 救助・支援の必要あり ● 安否の確認できず ● 確認済み・支援の必要なし

消 火 活 動

- 1 ブロック、自治会単位で耐震性防火水槽の小型動力ポンプ^o等を活用し、初期消火を行う。
- 2 出火場所を確認し、消火活動人員を割り振る。

消火活動手順

1 消火用水の選定

- (1) 火元に近い消火用水を選定し、強風時には風上側の消火用水を使うなど風向きに注意する。
- (2) 河川使用時はストレーナーを水の流れに向けて投入し、浮かび上がらないようにする。
- (3) ポンプから水面までの高低差はC級で7m以内、D級で4m以内を目安とする。

2 ホースの延長要領

- (1) 道路、建物の曲がり角では大きく曲げて、折れやねじれ、引きずりを避ける。
- (2) ホースの結合は漏水しないように確実にを行う。

3 送水の時期

- (1) ホースの延長状況や筒先担当の「放水始め」の合図があってから送水する。
- (2) 放口コックを開けるときは筒先の反動力を考え徐々に行う。

救出・救護活動

- 1 ブロック、自治会単位で防災資機材（ジャッキ、のこぎり、バール等）を活用し、協力して救出活動を行う。
- 2 救護（応急手当）を実施する。

救出・救護手順

1 被害の実態把握

- (1) 倒壊建物に取り残されている人がどのような状態か（けがの程度も含めて）確認する。
- (2) 建物の倒壊状況および内部に進入するスペースがあるかを確認する。
- (3) 二次災害が発生する危険要因がないか確認する。

2 二次災害の防止

- (1) 木片、トタン、ガラス等の軽量物を除去する。
- (2) 柱、梁等の大きな物の周辺物を除去するときは、これらの大きな物がずれたり倒壊しないようにロープ等で支持、固定する。
- (3) 火災の発生に備え、消火器や水バケツを用意する。ガスの元栓や電気のブレーカーは早期に閉止や遮断を行う。

3 要救助者の救出

要救助者の近くまで掘り進んだ後は資機材を使わずに手作業にする。

要救助者を無理に引き出そうとしない。

4 応急手当

出血しているときは清潔なガーゼ等で傷口を圧迫止血する。

災害時要援護者の避難支援

自宅の損傷の状況等により、避難所等に避難する必要がある災害時の要援護者の避難支援を行う。

避難支援のポイント

1 一人暮らし高齢者

迅速な情報伝達と避難誘導、安否確認および状況把握が必要。

2 寝たきりの要介護高齢者

避難時は車いす、担架、ストレッチャー等の補助器具が必要なことがある。

3 認知症の人

安否確認、状況把握、避難誘導の援助が必要。

4 視覚障がい者

音声による情報伝達や状況説明が必要。避難誘導等の援助が必要。

5 聴覚障がい者

補聴器の使用や、手話、文字、絵図等を活用した情報伝達および状況説明が必要。

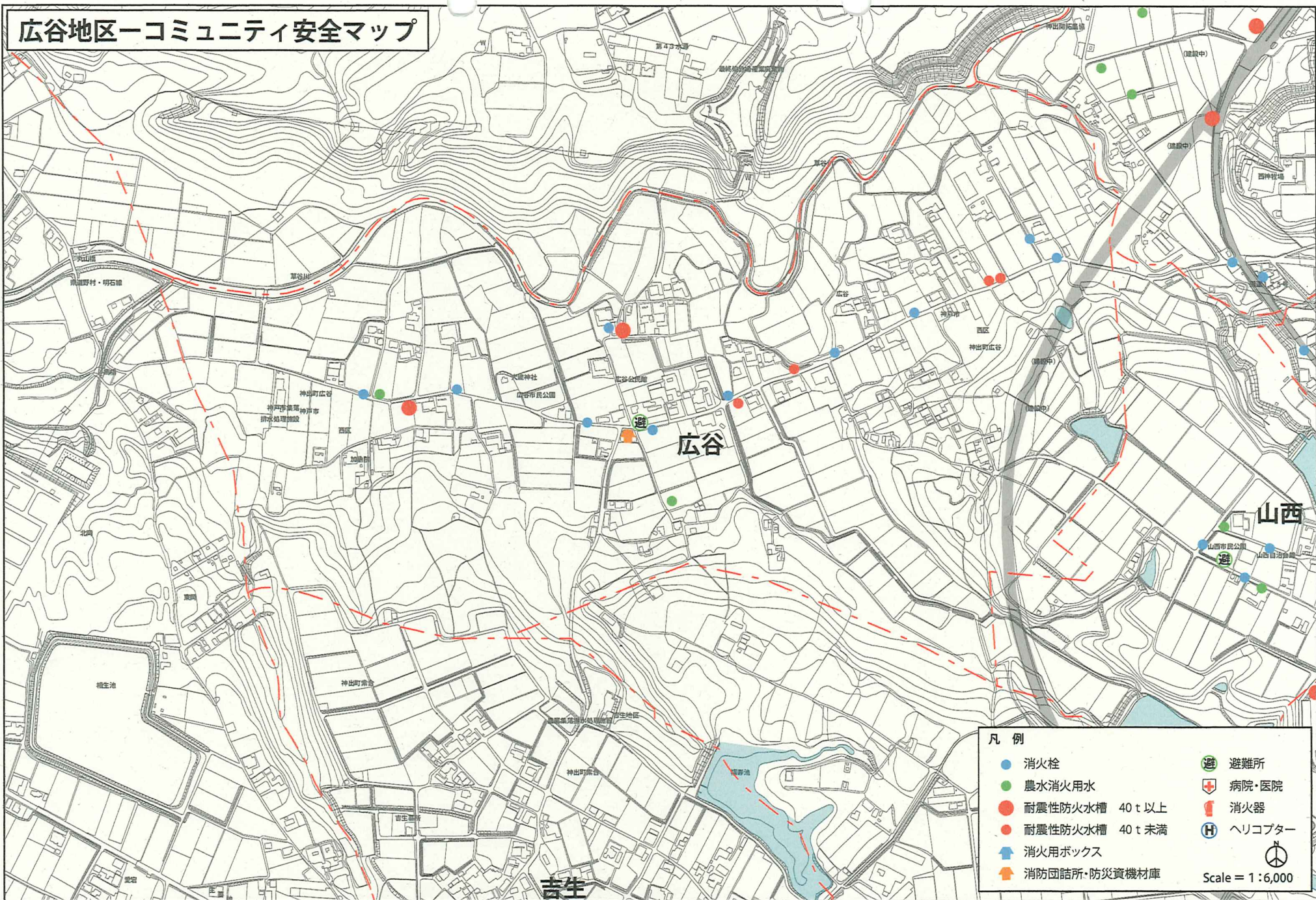
6 言語障がい者

手話、筆談等によって状況を把握することが必要。

7 在宅人工呼吸器使用者

避難所での電源確保が必要。

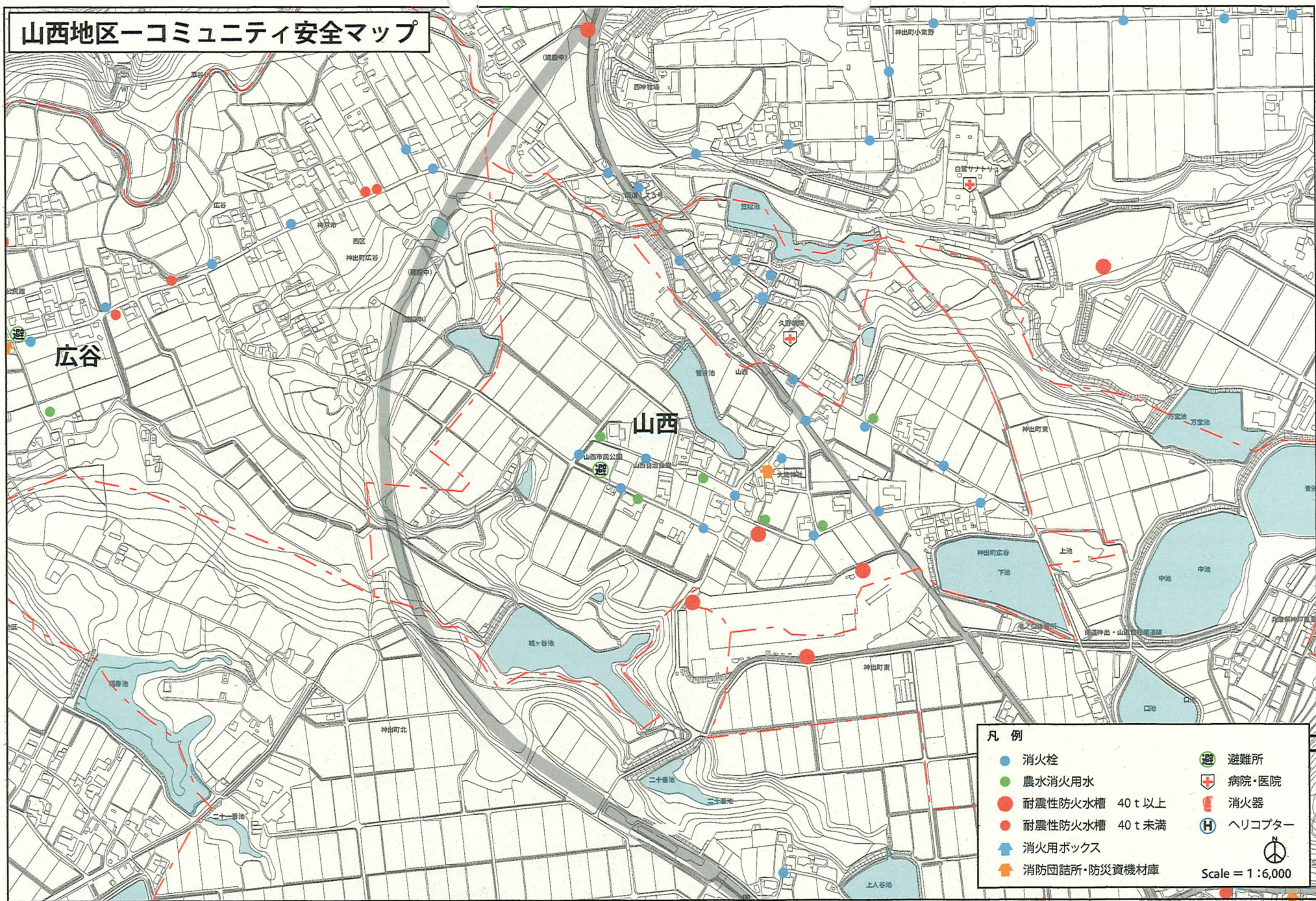
広谷地区ーコミュニティ安全マップ



- 凡例
- 消火栓
 - 農水消火用水
 - 耐震性防火水槽 40 t 以上
 - 耐震性防火水槽 40 t 未満
 - 消火用ボックス
 - 消防団詰所・防災資機材庫
 - 避難所
 - ⊕ 病院・医院
 - 消火器
 - Ⓜ ヘルコプター
 - ☰
- Scale = 1 : 6,000

吉生

山西地区ーコミュニティ安全マップ



- 凡例
- | | |
|-------------------|---------------------|
| ● 消火栓 | 🏠 避難所 |
| ● 農水消火用水 | 🏥 病院・医院 |
| ● 耐震性防火水槽 40 t 以上 | 🔥 消火器 |
| ● 耐震性防火水槽 40 t 未満 | 🚁 ヘリコプター |
| 📦 消火用ボックス | 🕒 Scale = 1 : 6,000 |
| 📡 消防団詰所・防災資機材庫 | |

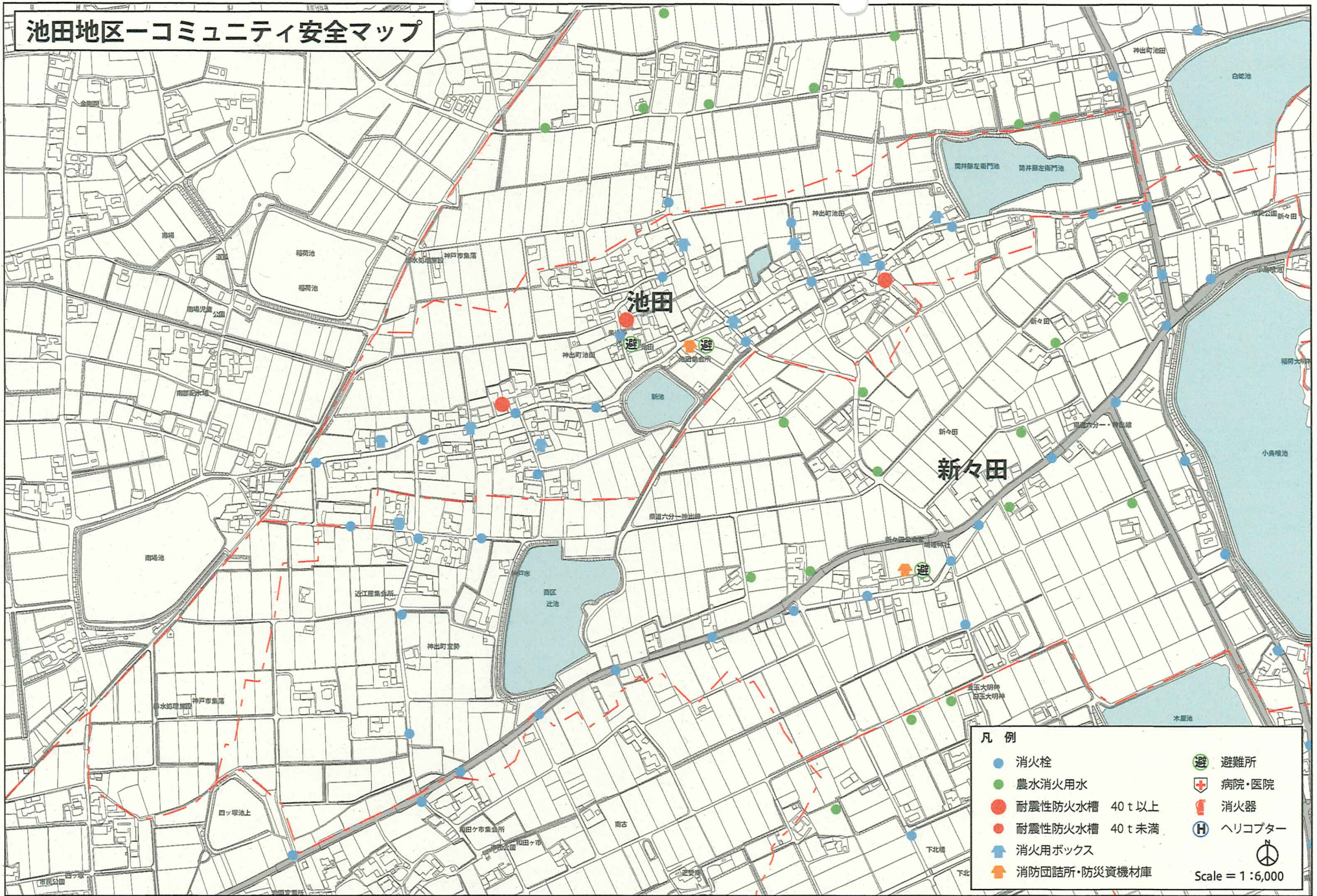
北地区ーコミュニティ安全マップ

凡例

- 消火栓
 - 農水消火用水
 - 耐震性防火水槽 40 t 以上
 - 耐震性防火水槽 40 t 未満
 - 消火用ボックス
 - 消防団詰所・防災資機材庫
 - 避難所
 - 病院・医院
 - 消火器
 - ヘリコプター
- Scale = 1:6,000

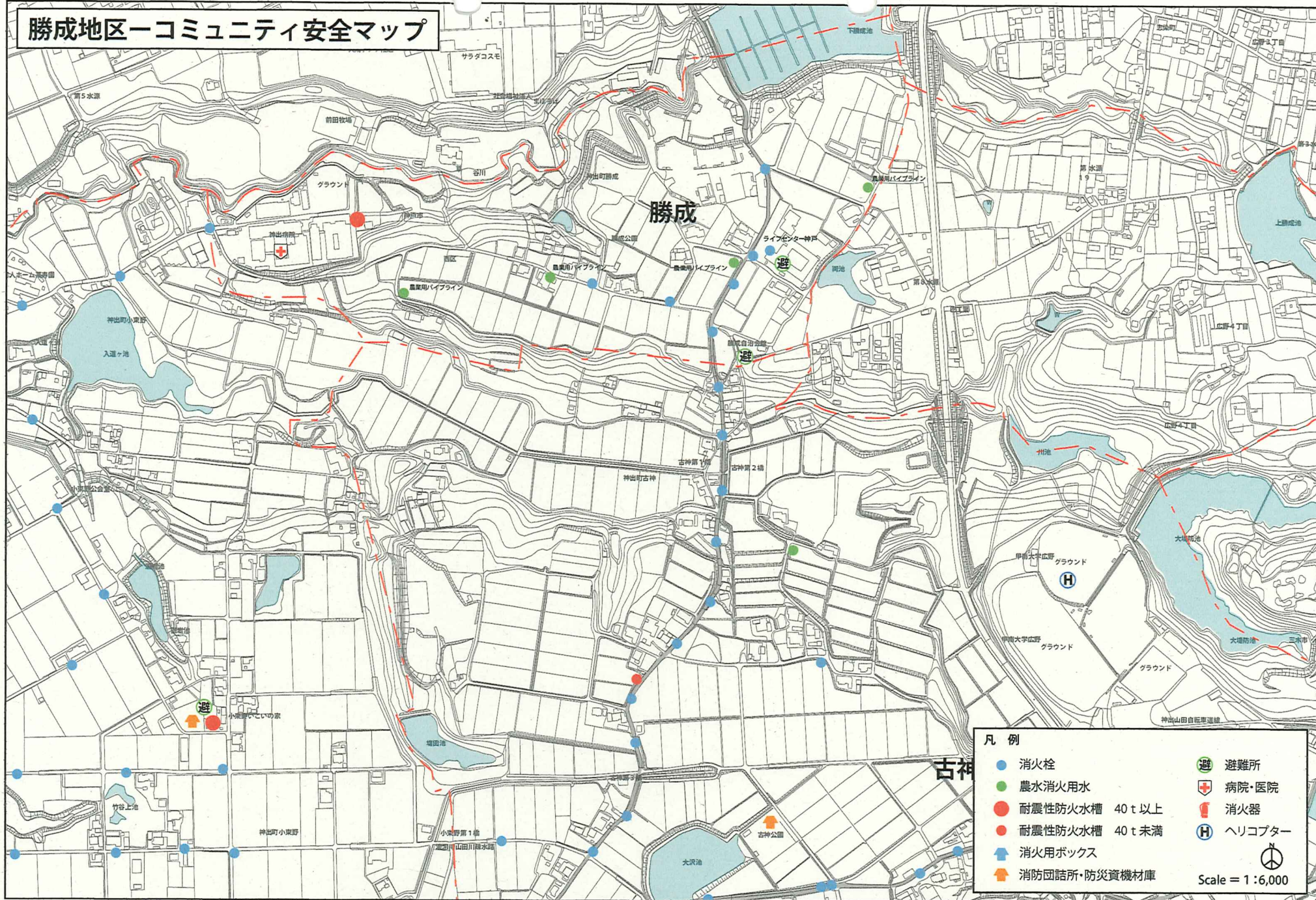


池田地区ーコミュニティ安全マップ



- 凡例**
- 消火栓
 - 農水消火用水
 - 耐震性防火水槽 40 t 以上
 - 耐震性防火水槽 40 t 未満
 - 消火用ボックス
 - 消防団詰所・防災資機材庫
 - 避難所
 - ⊕ 病院・医院
 - 🔥 消火器
 - Ⓜ ヘリコプター
- Scale = 1 : 6,000

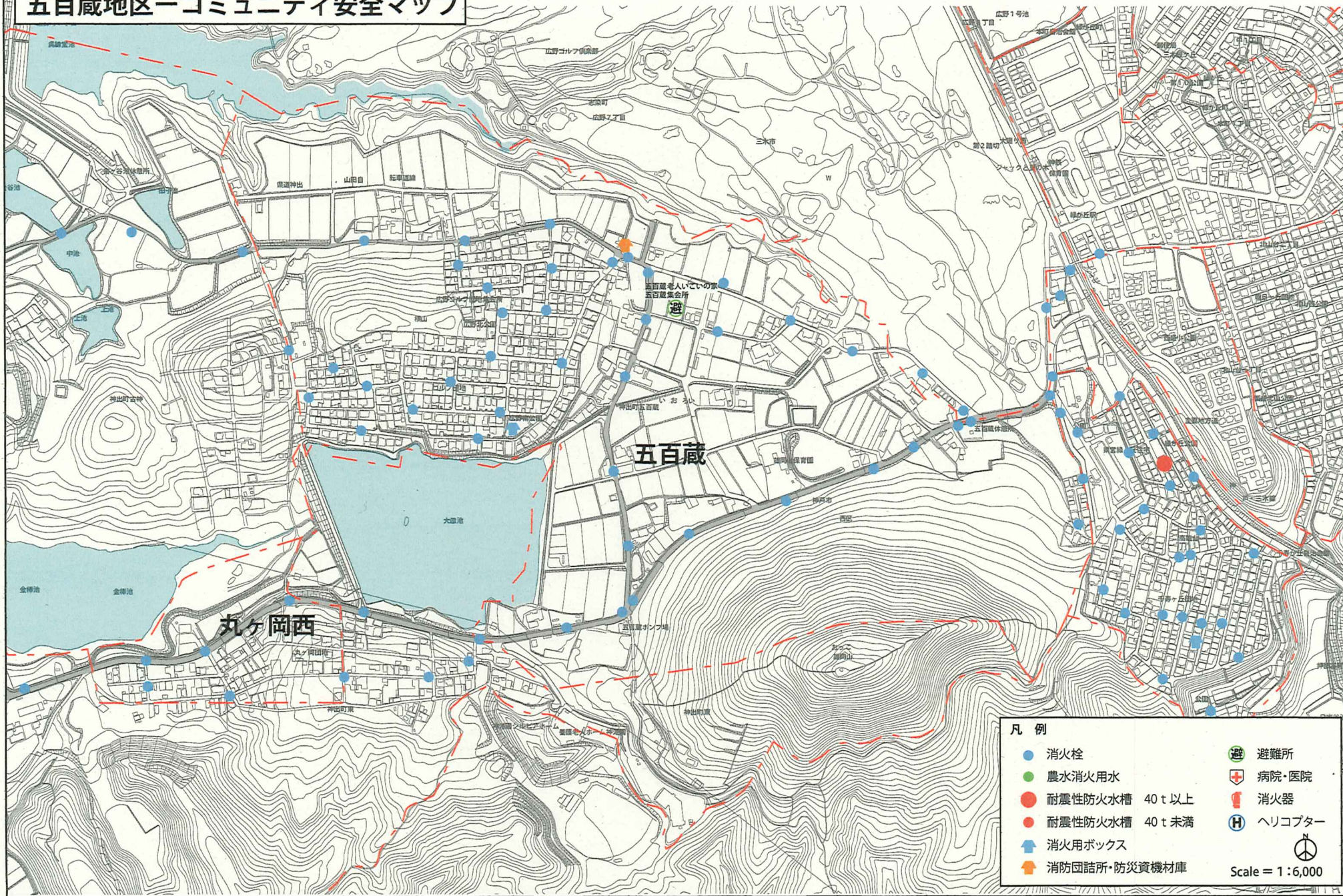
勝成地区ーコミュニティ安全マップ



凡 例

消火栓	農水消火用水	避難所
耐震性防火水槽 40 t 以上	耐震性防火水槽 40 t 未満	病院・医院
消火用ボックス	消防団詰所・防災資機材庫	消火器
		ヘルコプター
		Scale = 1 : 6,000

五百蔵地区—コミュニティ安全マップ

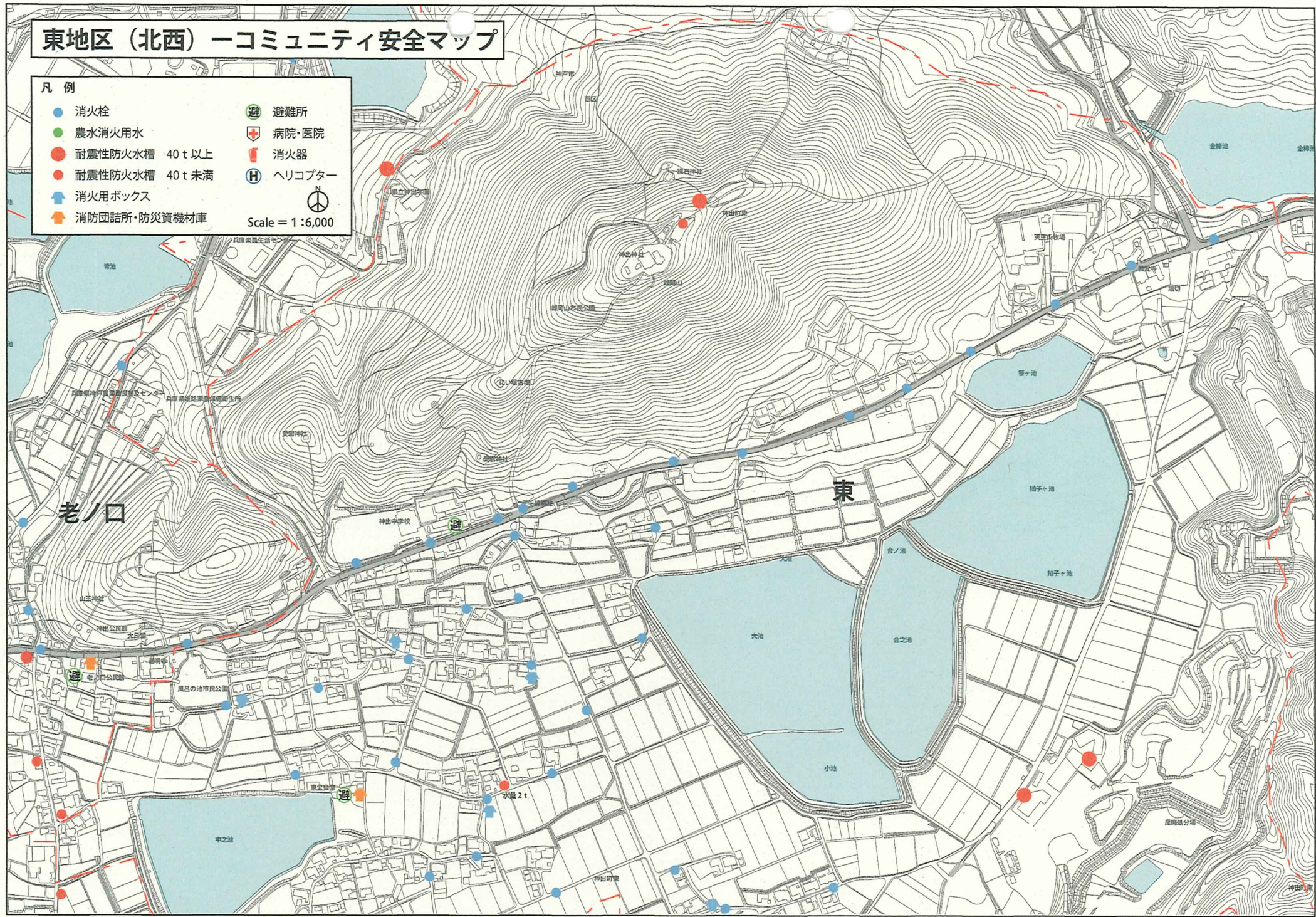


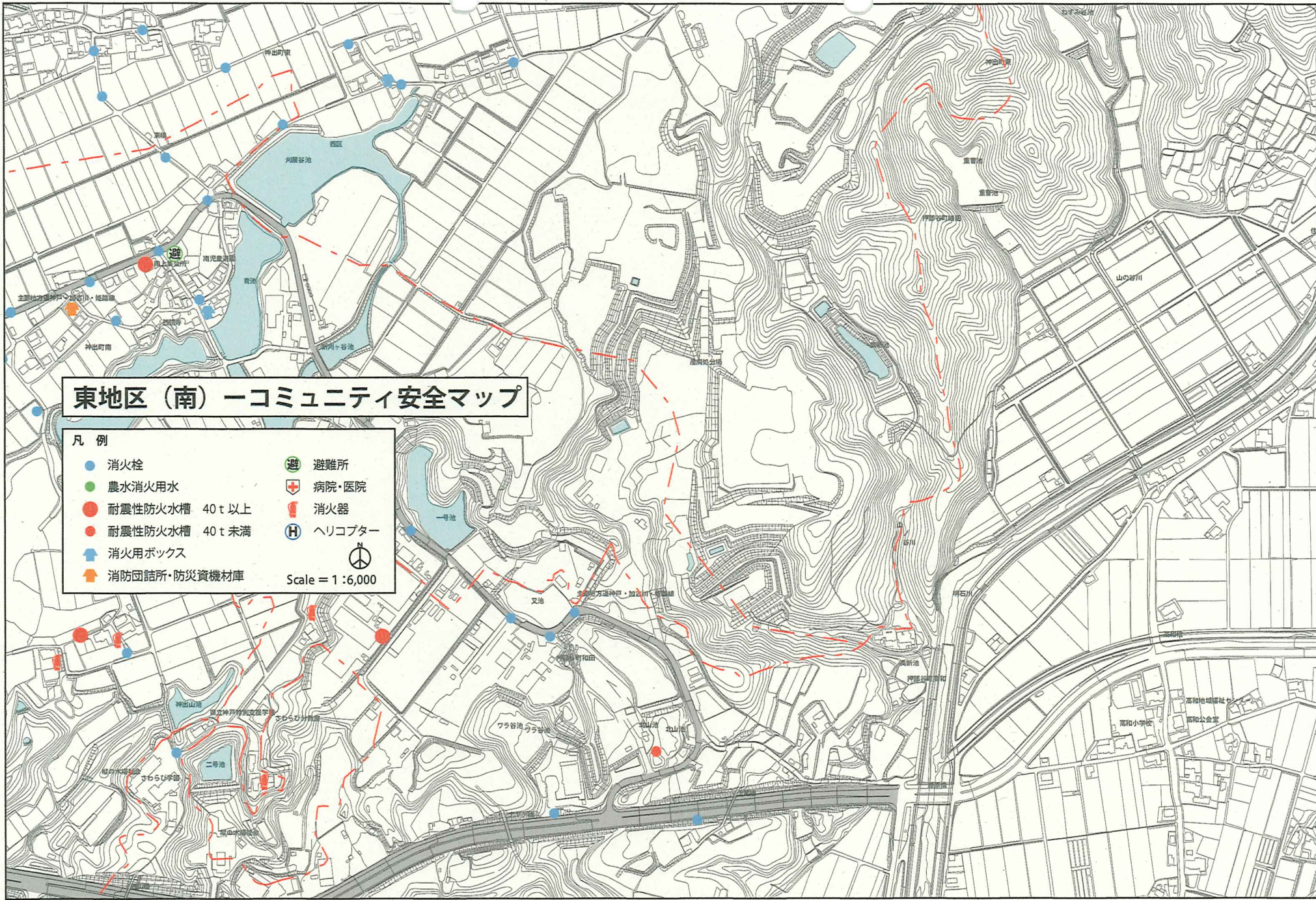
- 凡例**
- 消火栓
 - 農水消火用水
 - 耐震性防火水槽 40 t 以上
 - 耐震性防火水槽 40 t 未満
 - 消火用ボックス
 - 消防団詰所・防災資機材庫
 - 避難所
 - ⊕ 病院・医院
 - 消火器
 - Ⓜ ヘリコプター
- Scale = 1 : 6,000

東地区（北西）ーコミュニティ安全マップ

凡例

● 消火栓	🏠 避難所
● 農水消火用水	🏥 病院・医院
● 耐震性防火水槽 40 t 以上	🔥 消火器
● 耐震性防火水槽 40 t 未満	🚁 H ヘリコプター
📦 消火用ボックス	🧭
🏠 消防団詰所・防災資機材庫	Scale = 1 : 6,000





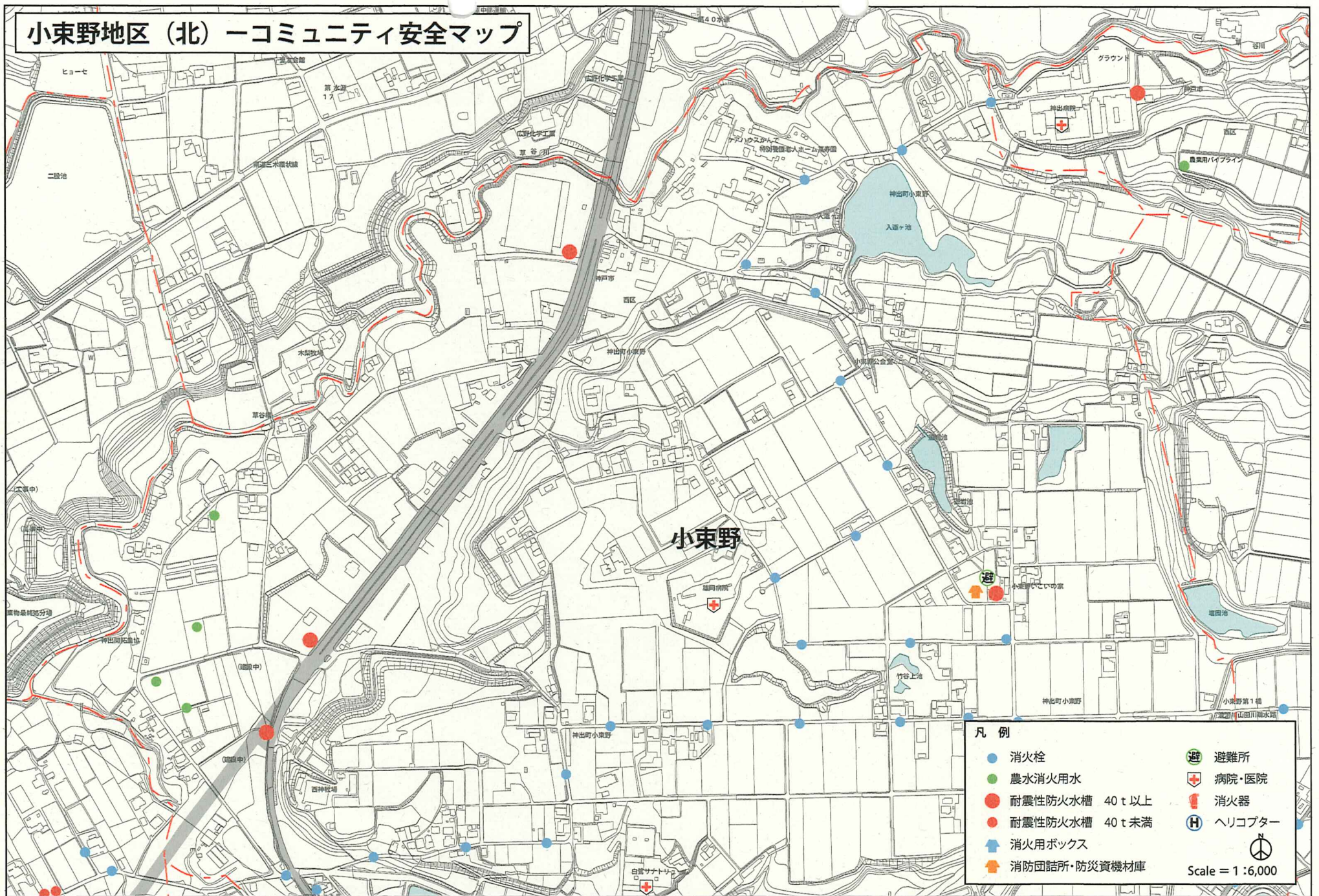
東地区（南）ーコミュニティ安全マップ

凡 例

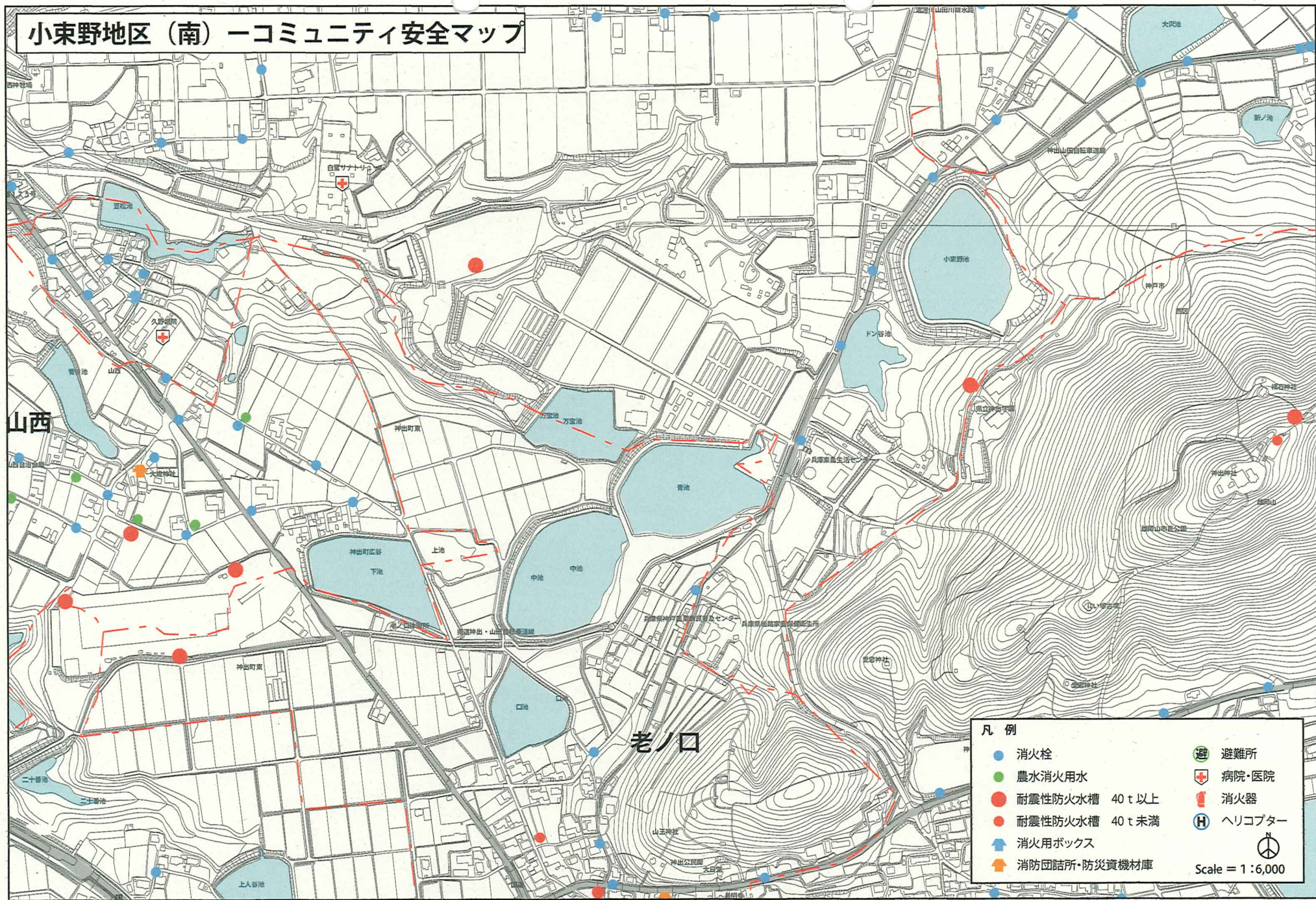
- 消火栓
- 農水消火用水
- 耐震性防火水槽 40 t 以上
- 耐震性防火水槽 40 t 未満
- 消火用ボックス
- 消防団詰所・防災資機材庫
- 避難所
- 病院・医院
- 消火器
- ヘリコプター

Scale = 1:6,000

小束野地区（北）ーコミュニティ安全マップ



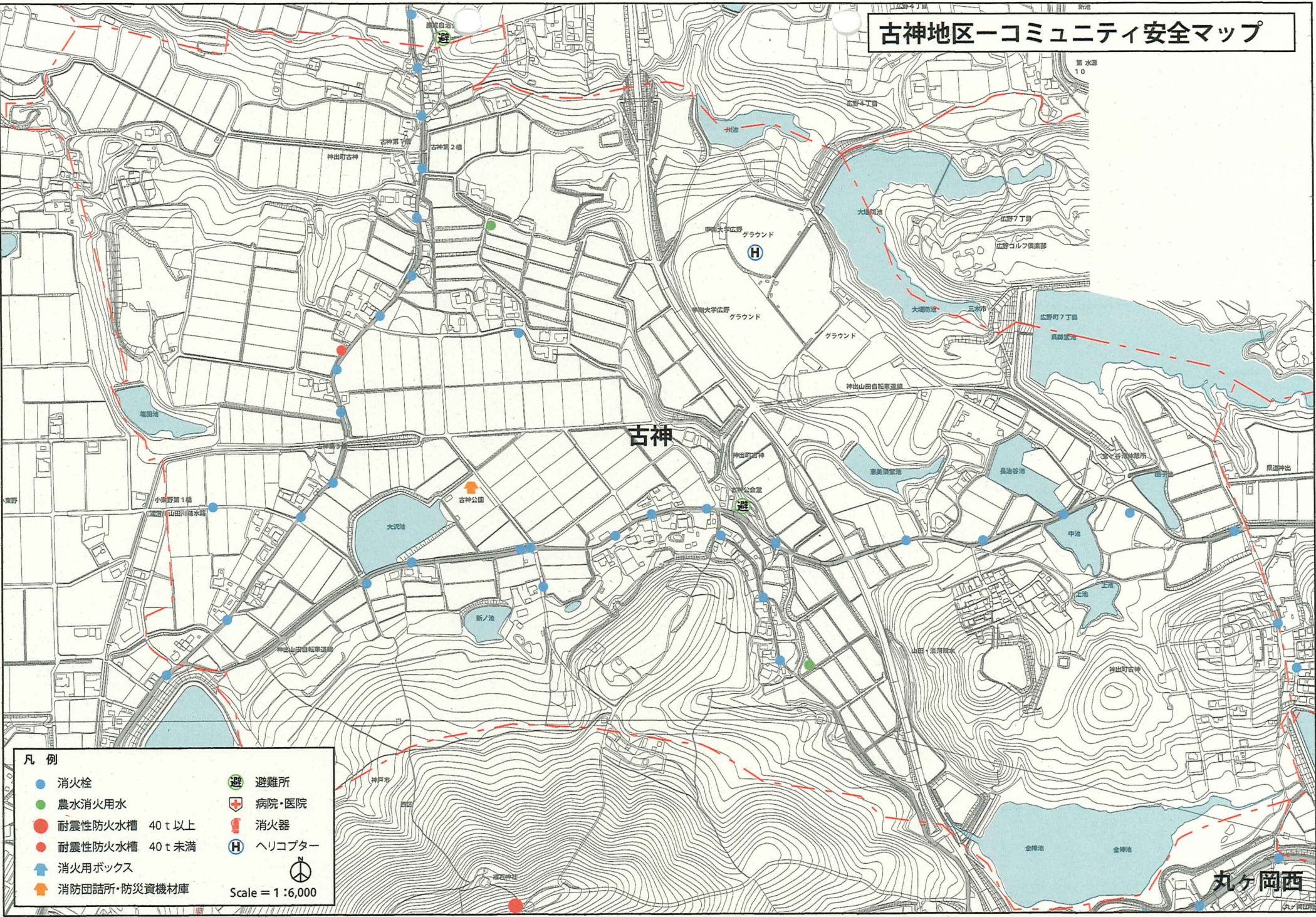
小束野地区（南）ーコミュニティ安全マップ



凡 例

● 消火栓	避難所
● 農水消火用水	病院・医院
● 耐震性防火水槽 40 t 以上	消火器
● 耐震性防火水槽 40 t 未満	H ヘルicoptar
■ 消火用ボックス	Scale = 1:6,000
■ 消防団詰所・防災資機材庫	

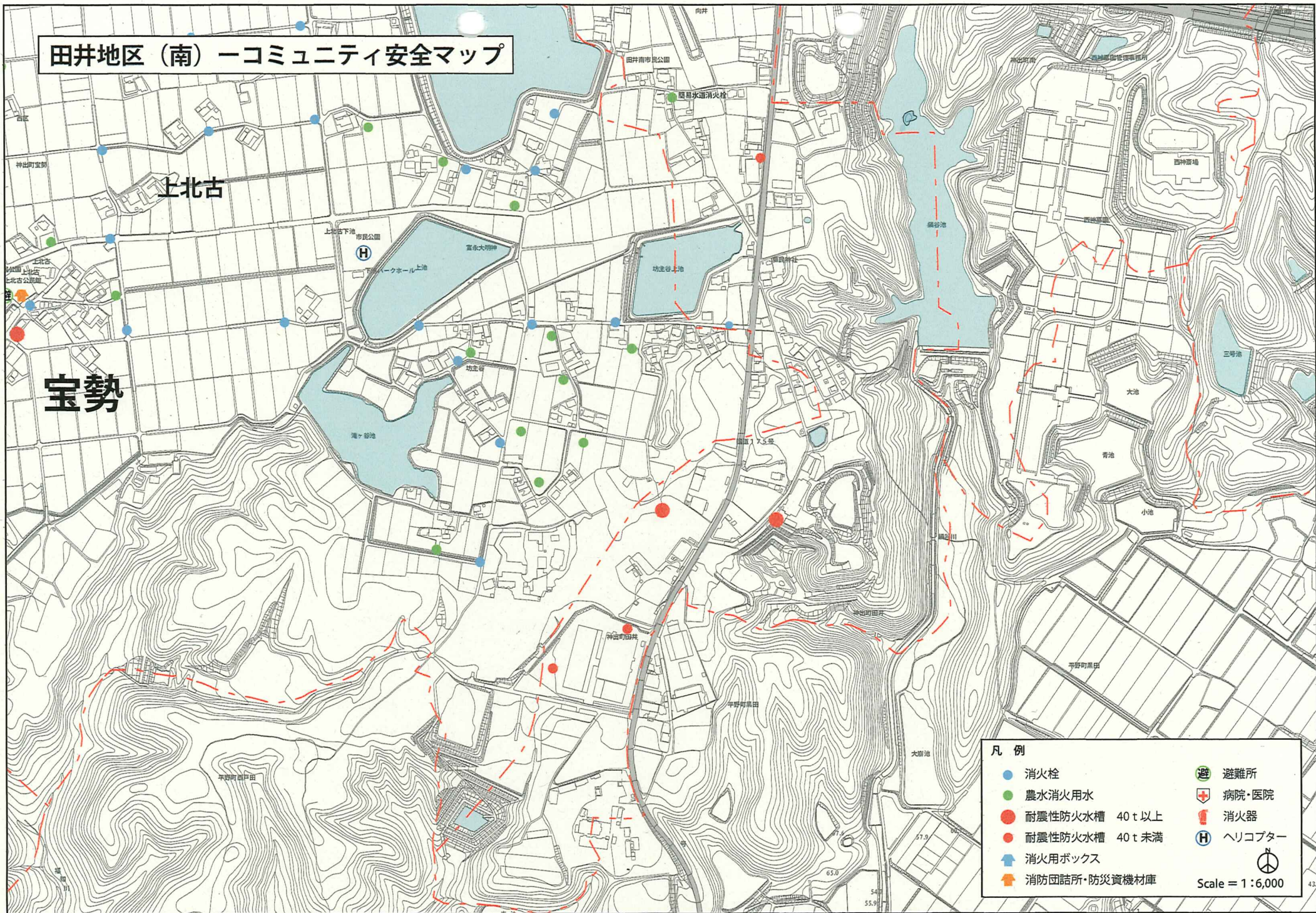
古神地区一コミュニティ安全マップ



- 凡例
- 消火栓
 - 農水消火用水
 - 耐震性防火水槽 40 t 以上
 - 耐震性防火水槽 40 t 未満
 - 消火用ボックス
 - 消防団詰所・防災資機材庫
 - 避難所
 - ⊕ 病院・医院
 - 🔥 消火器
 - Ⓜ ヘリコプター
 - 🧭
- Scale = 1 : 6,000

丸ヶ岡西

田井地区（南）ーコミュニティ安全マップ



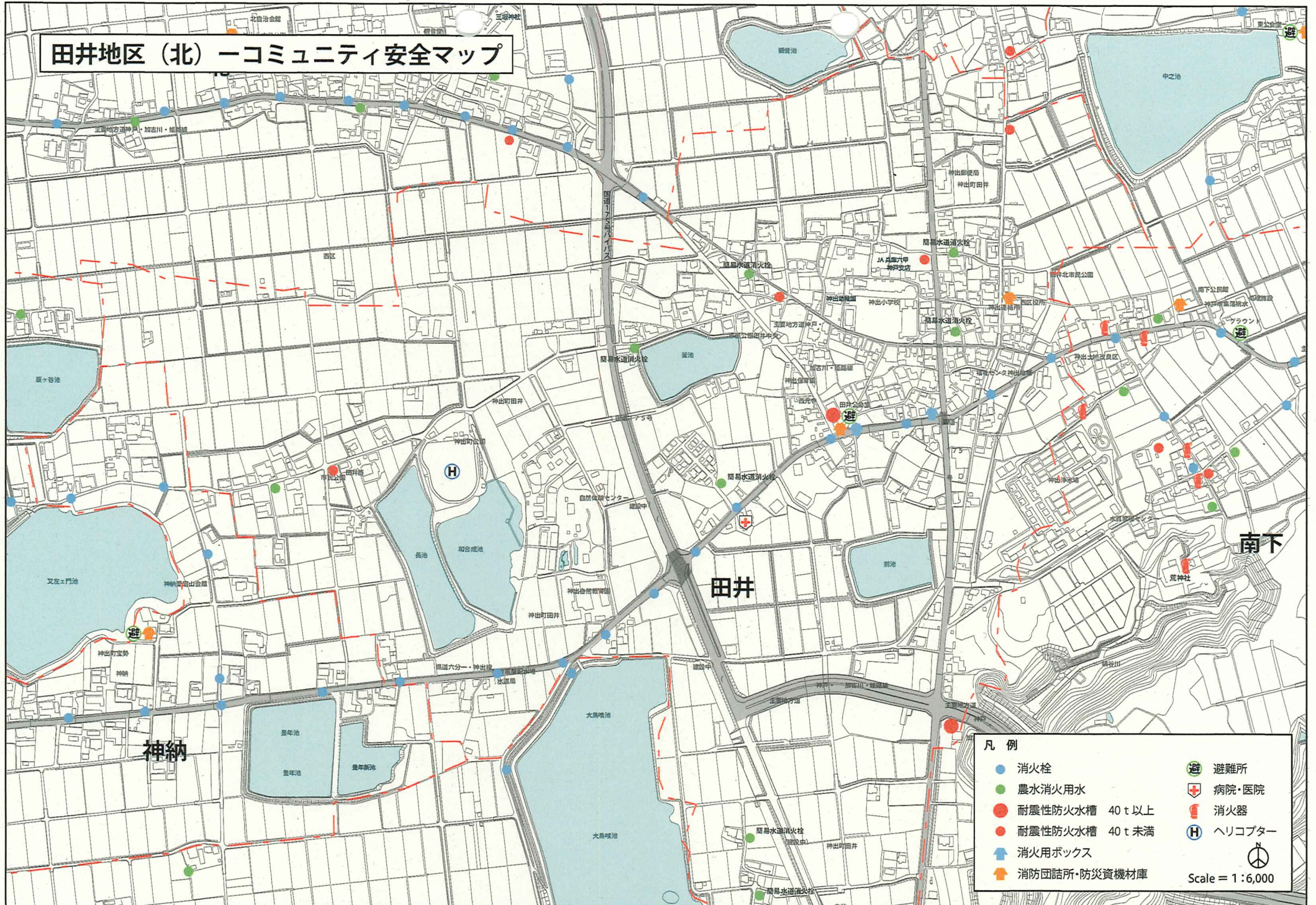
宝勢

上北古

凡例

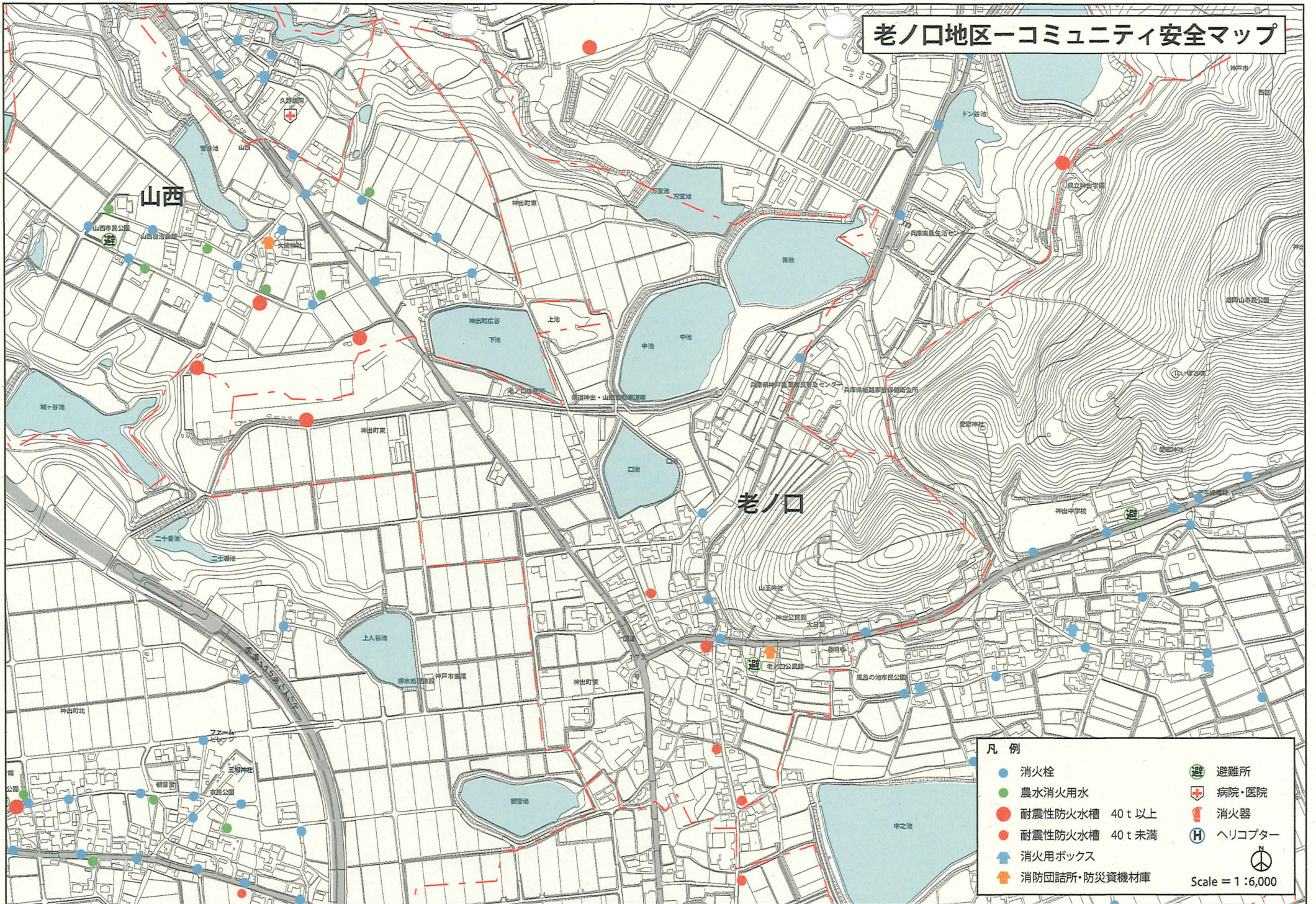
● 消火栓	● 避難所
● 農水消火用水	⊕ 病院・医院
● 耐震性防火水槽 40 t 以上	🔥 消火器
● 耐震性防火水槽 40 t 未満	Ⓜ ヘルコプター
📦 消火用ボックス	🕒
🏠 消防団詰所・防災資機材庫	Scale = 1 : 6,000

田井地区（北）ーコミュニティ安全マップ



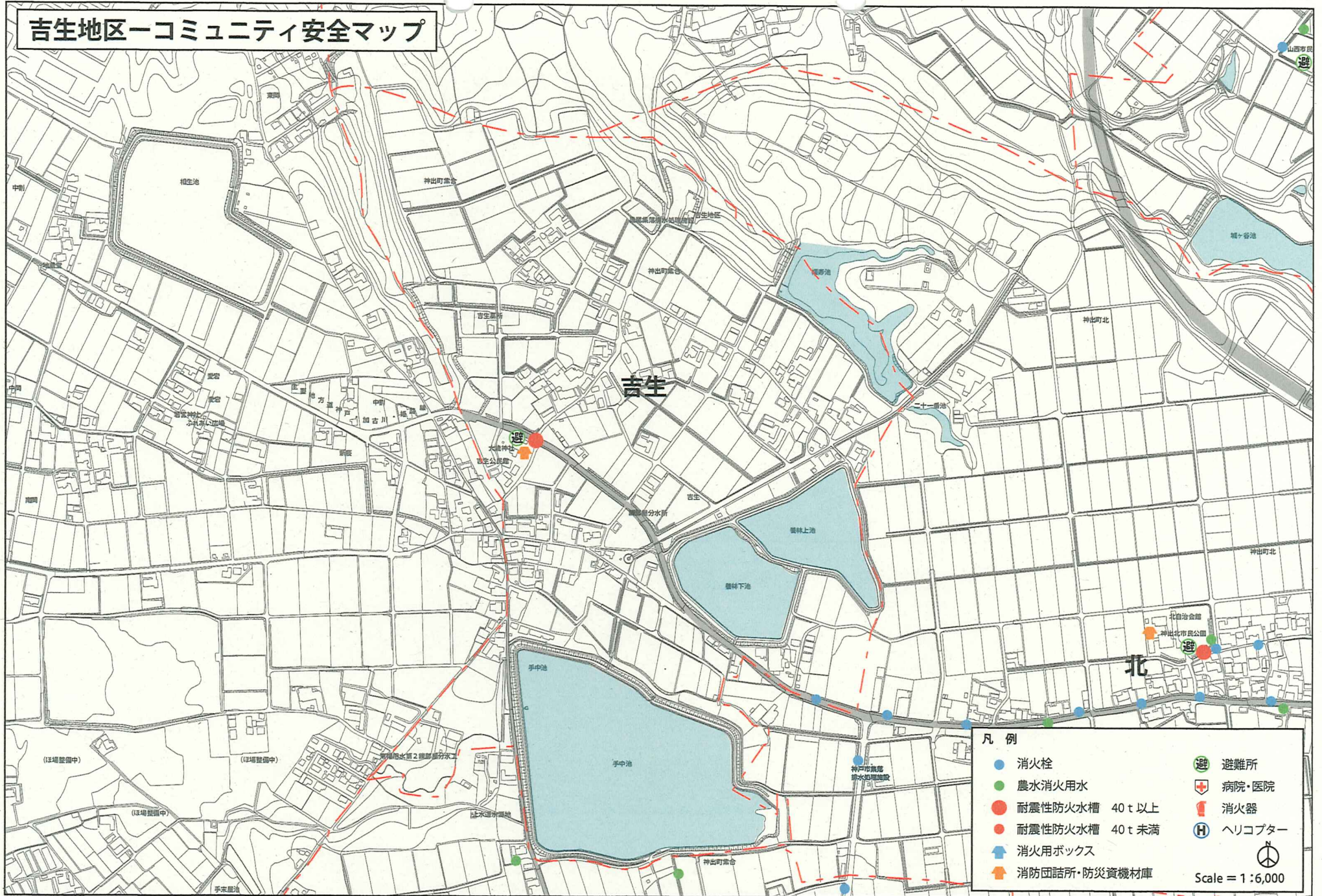
- | | |
|-------------------|-------------------|
| ● 消火栓 | ● 避難所 |
| ● 農水消火用水 | ⚡ 病院・医院 |
| ● 耐震性防火水槽 40 t 以上 | 🔥 消火器 |
| ● 耐震性防火水槽 40 t 未満 | 🚁 H ヘリコプター |
| 📦 消火用ボックス | 🕒 Scale = 1:6,000 |
| 🚒 消防団詰所・防災資機材庫 | |

老ノ口地区ーコミュニティ安全マップ



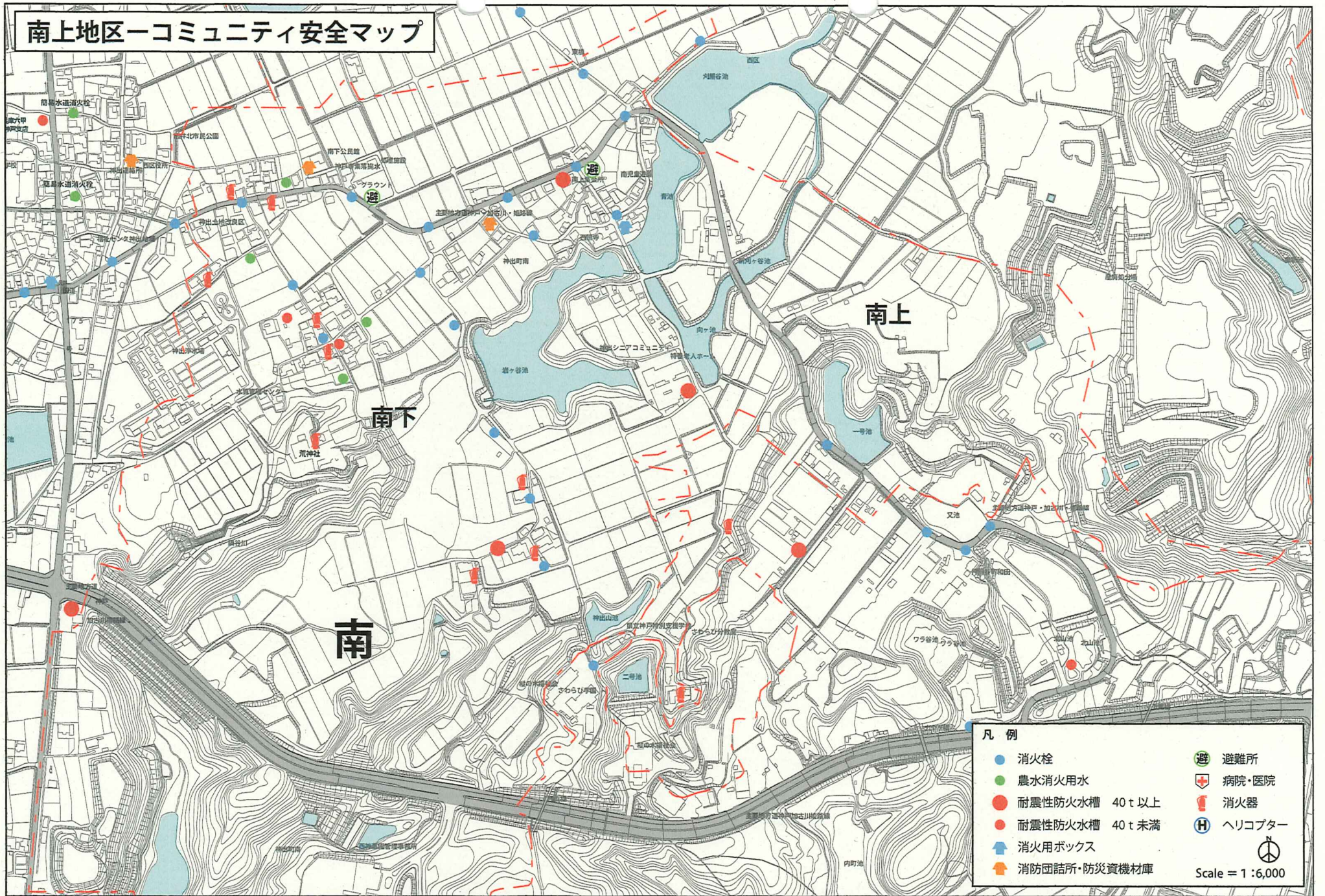
- 凡例
- 消火栓
 - 農水消火用水
 - 耐震性防火水槽 40t以上
 - 耐震性防火水槽 40t未満
 - 消火用ボックス
 - 消防団詰所・防災資機材庫
 - 避 避難所
 - ⛑ 病院・医院
 - 🔥 消火器
 - 🚁 H ヘリコプター
- Scale = 1 : 6,000

吉生地区—コミュニティ安全マップ



- 凡例
- 消火栓
 - 農水消火用水
 - 耐震性防火水槽 40 t 以上
 - 耐震性防火水槽 40 t 未満
 - 消火用ボックス
 - 消防団詰所・防災資機材庫
 - 避難所
 - ⊕ 病院・医院
 - 消火器
 - Ⓜ ヘルコプター
- Scale = 1:6,000

南上地区ーコミュニティ安全マップ

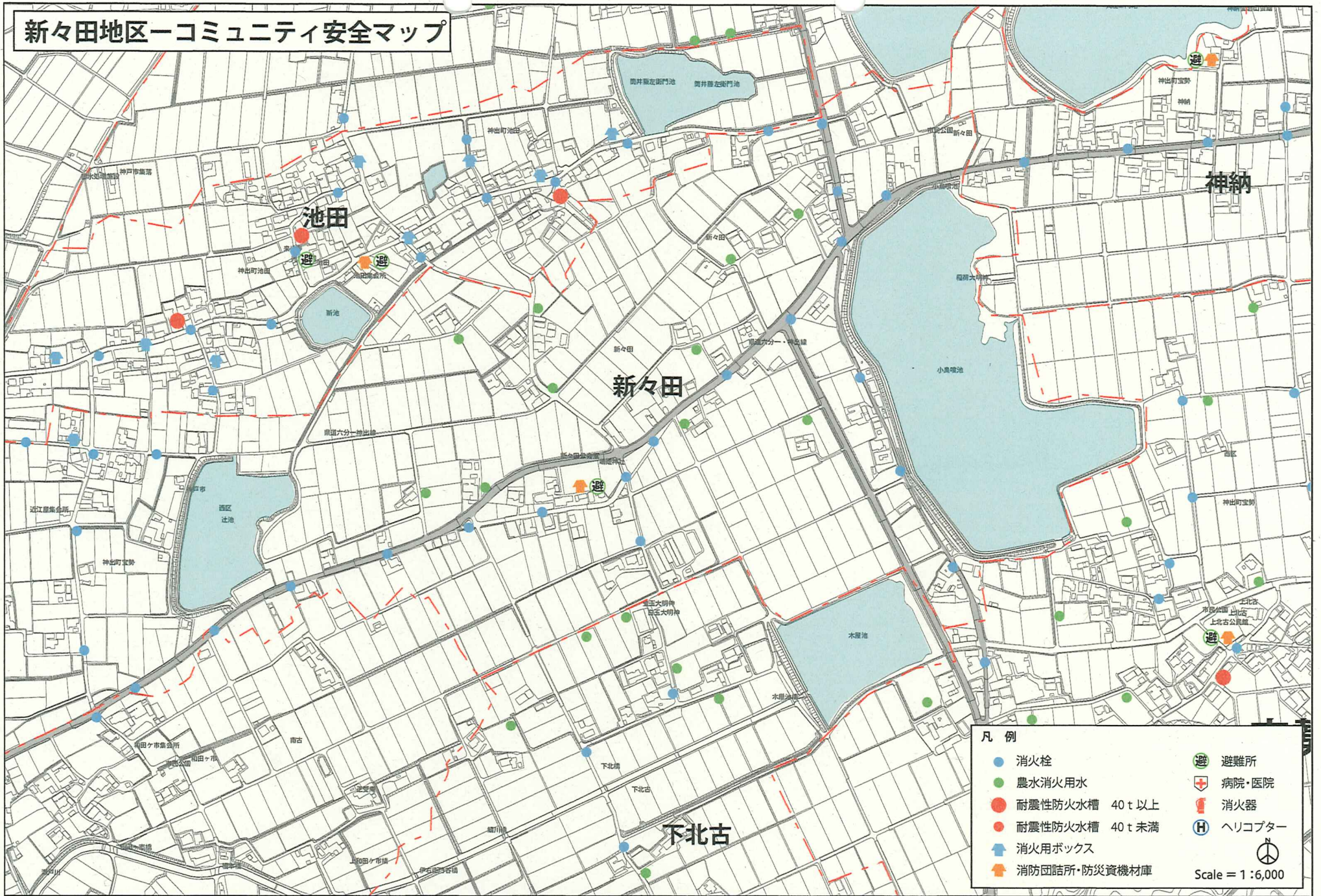


凡 例

● 消火栓	避難所
● 農水消火用水	病院・医院
● 耐震性防火水槽 40 t 以上	消火器
● 耐震性防火水槽 40 t 未満	ヘリコプター
■ 消火用ボックス	
■ 消防団詰所・防災資機材庫	

Scale = 1 : 6,000

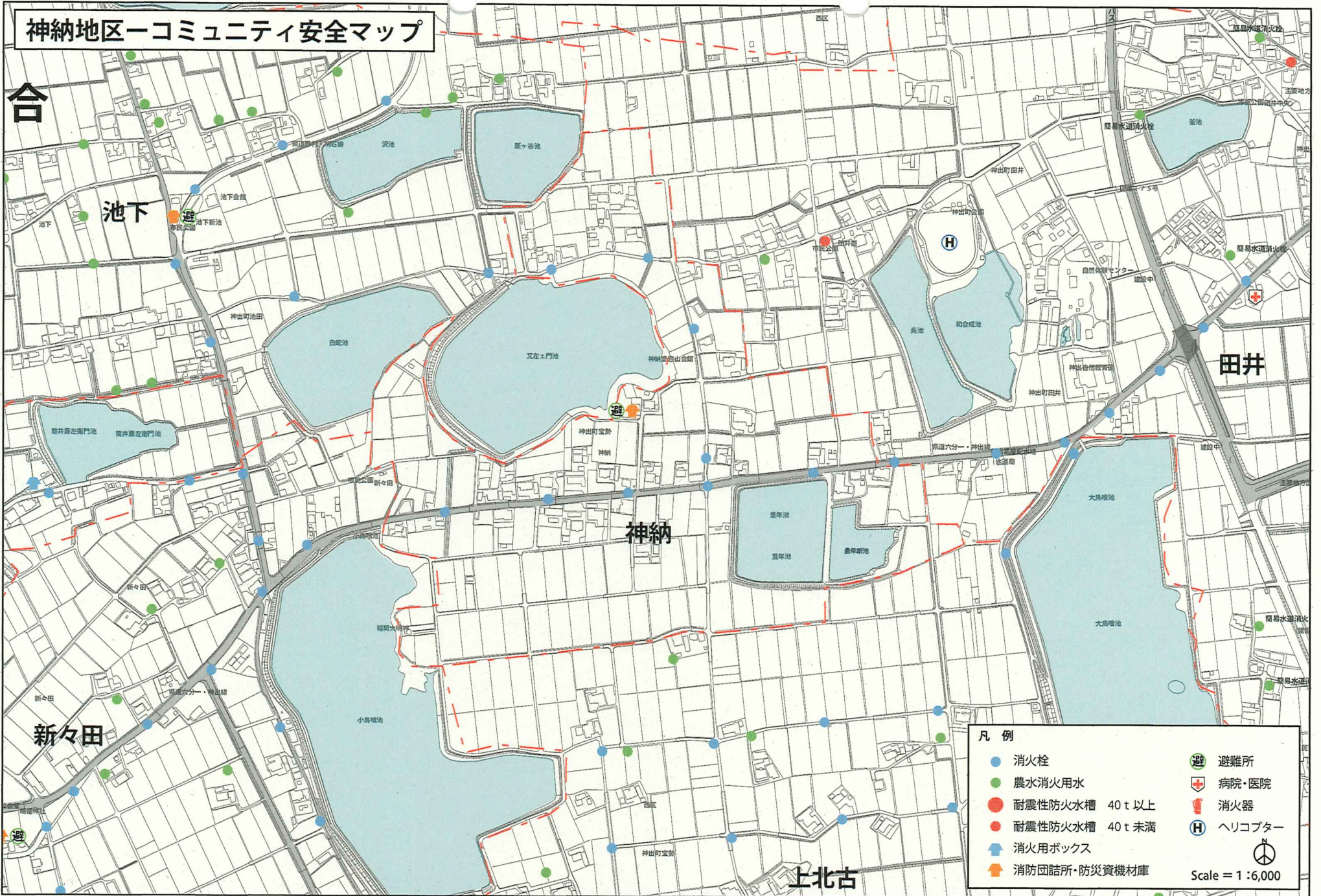
新々田地区ーコミュニティ安全マップ



- 凡例
- 消火栓
 - 農水消火用水
 - 耐震性防火水槽 40 t 以上
 - 耐震性防火水槽 40 t 未満
 - 消火用ボックス
 - 消防団詰所・防災資機材庫
 - 避難所
 - ⚡ 病院・医院
 - 🔥 消火器
 - 🚁 ヘリコプター
 - 🕒 Scale = 1 : 6,000

神納地区—コミュニティ安全マップ

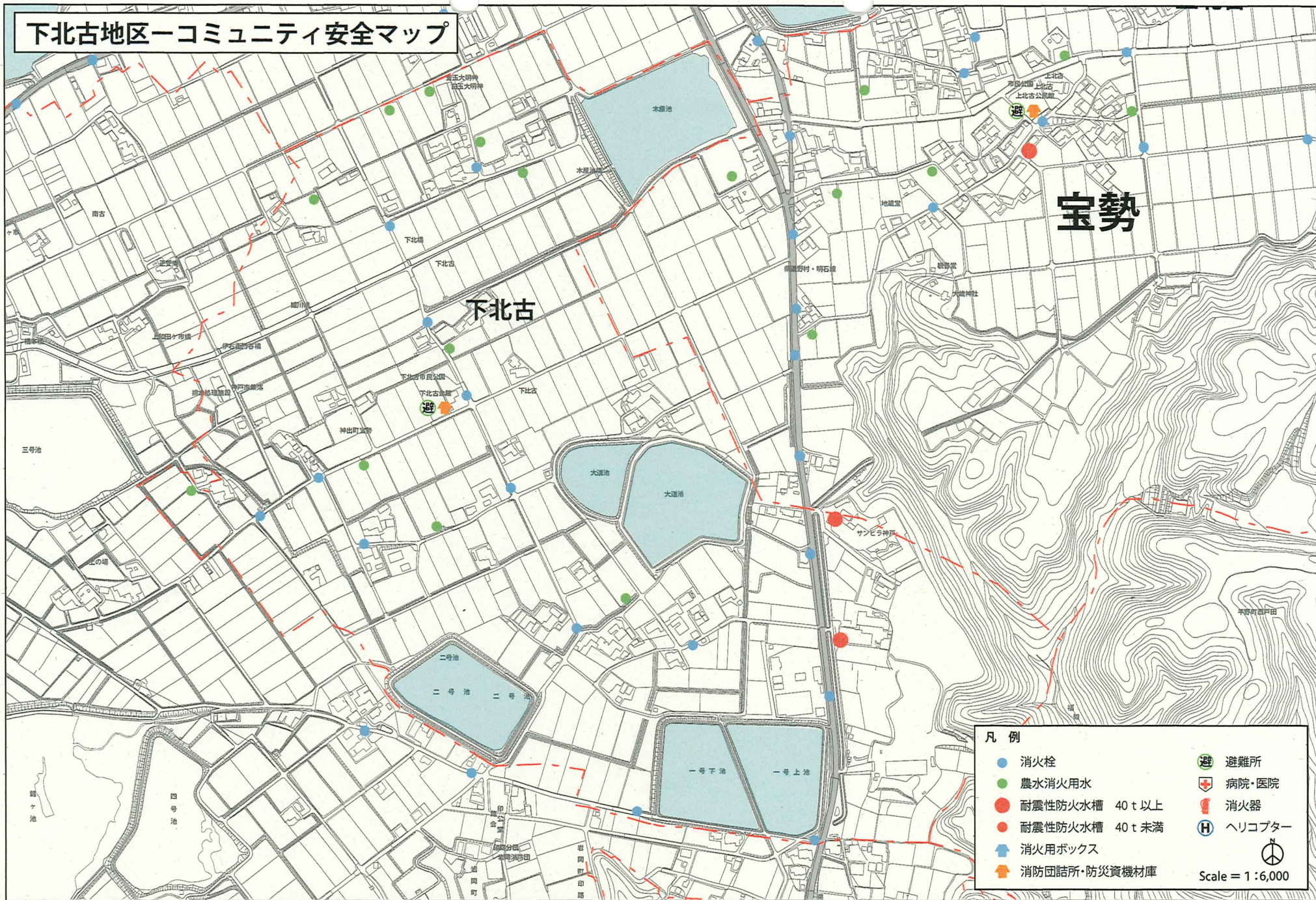
合



凡例

● 消火栓	● 避難所
● 農水消火用水	⛔ 病院・医院
● 耐震性防火水槽 40 t 以上	🔥 消火器
● 耐震性防火水槽 40 t 未満	🚁 ヘルコプター
■ 消火用ボックス	🕒
■ 消防団詰所・防災資機材庫	Scale = 1 : 6,000

下北古地区—コミュニティ安全マップ



- 凡例**
- 消火栓
 - 農水消火用水
 - 耐震性防火水槽 40 t 以上
 - 耐震性防火水槽 40 t 未満
 - 消火用ボックス
 - 消防団詰所・防災資機材庫
 - 避難所
 - ⛔ 病院・医院
 - 🚒 消火器
 - 🚁 ヘリコプター
- Scale = 1:6,000

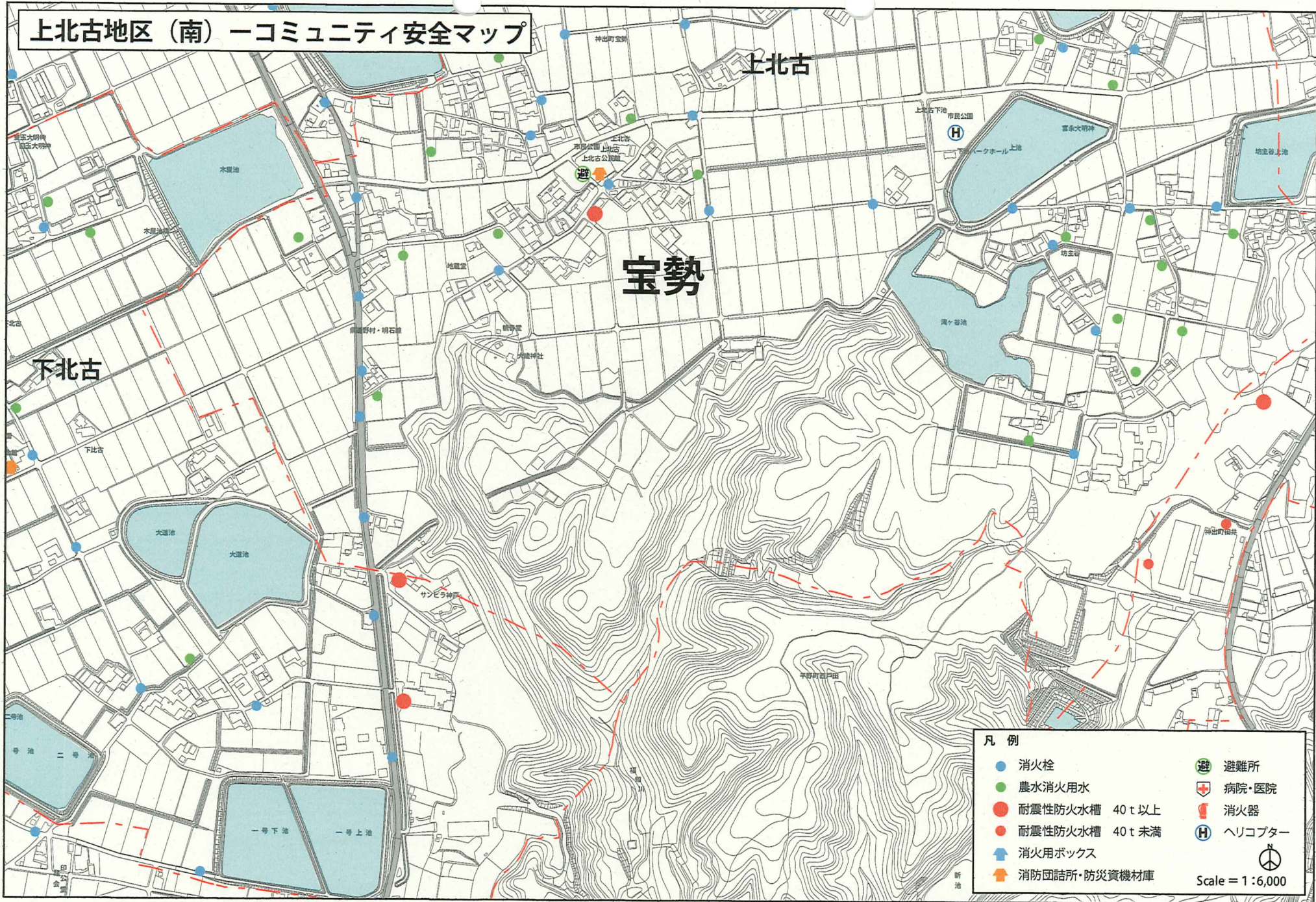
上北古地区（北）ーコミュニティ安全マップ

凡例

- 消火栓
 - 農水消火用水
 - 耐震性防火水槽 40 t 以上
 - 耐震性防火水槽 40 t 未満
 - 消火栓ボックス
 - 消防団詰所・防災資機材庫
 - 避難所
 - ⊕ 病院・医院
 - 🔥 消火器
 - Ⓜ ヘリコプター
- Scale = 1:6,000

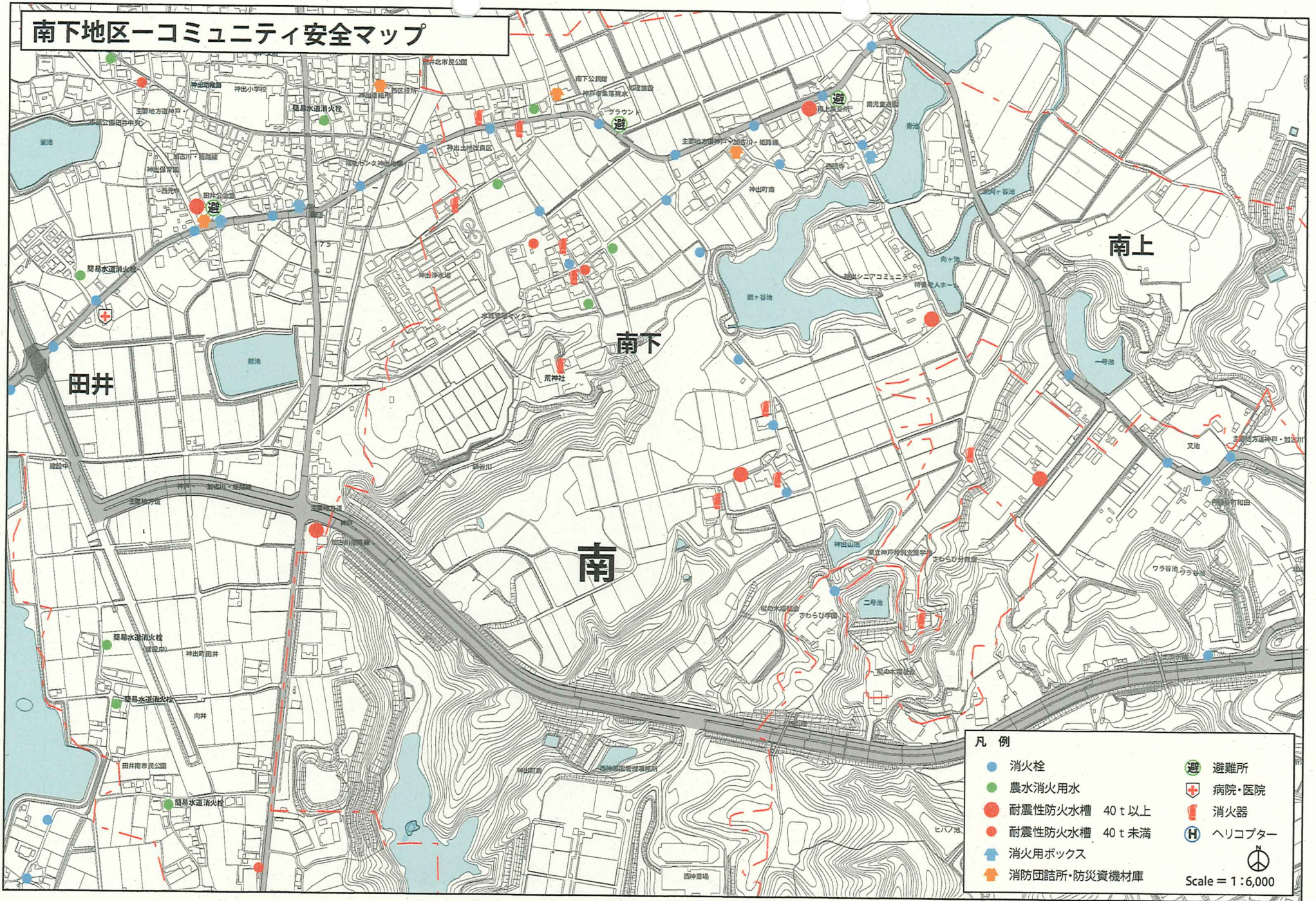


上北古地区（南）ーコミュニティ安全マップ



- 凡例
- | | |
|-------------------|-------------------|
| ● 消火栓 | ⚠ 避難所 |
| ● 農水消火用水 | 🏥 病院・医院 |
| ● 耐震性防火水槽 40 t 以上 | 🔥 消火器 |
| ● 耐震性防火水槽 40 t 未満 | 🚁 H ヘリコプター |
| 📦 消火用ボックス | 🕒 Scale = 1:6,000 |
| 🏠 消防団詰所・防災資機材庫 | |

南下地区ーコミュニティ安全マップ



- 凡例
- 消火栓
 - 農水消火用水
 - 耐震性防火水槽 40 t 以上
 - 耐震性防火水槽 40 t 未満
 - 消火用ボックス
 - 消防団詰所・防災資機材庫
 - 避難所
 - ⊕ 病院・医院
 - 🔥 消火器
 - 🚁 ヘリコプター
- Scale = 1:6,000